

令和六年度 専門入学試験問題

国語

注意 答えはすべて解答用紙に記入すること。

純真高等学校

次の文章を読んだ上で、後の問いに答えなさい。

ことばの意味は同じでも、語感^{ごかん}は時代とともに移り変わっていく。現在、日常的に使われていることばのなかにも、語感が変化しているものは意外に多い。

たとえば、「食べる」は、もとは「飲食物をいただく」という意味の表現だった。しかし今は、丁寧^{ていねい}というイシキ^{いしき}はあまり感じられず、ふつうの日常和語となっている。「食べる」が一般化されることで、もともと普通のことばだった「食^くう」はぞんざいな語として扱われるようになった。

「飲み食^ぐい」のことを「飲み食^たべ」と言わないのは、丁寧^{ていねい}さのレベルが合わないからだけではなく、「食べる」という語のもとになった「賜^たぶ」にすでに「飲む」という意味が含まれているからでもある。「食^くい扶持^{ふち}」「大食^{おほく}い」「共食^{きく}い」などと同様、「食^くう」という形で熟した表現まで「食べる」に置き換えるのには、現在でもまだ大きなテイク^cウがある。(I)

一方、「食^くう」は「食^くう」でも「食^くする」という意味が消え、「ガソリンを食^くう」「蚊^かに食^くわれる」「時間^{じかん}を食^くう」「いたずらに年^{とし}を食^くう」などという言い方になると、ぞんざいであるという語感^{ごかん}はまったく働かず、昔どおりの感じで生き残っている。

「飯^いを食^くう」の「飯^い」についても言及すると、現代では主に男性^{おとこ}がくだけた会話などに用いるぞんざいな語になっている。が、これも「食^くう」と同様、もともとはごく普通に使われることばだった。(II)

食^くに関係してさらに言えば、「おなか^{はら}が空^すく」という表現も語感^{ごかん}が変化したことばの一つだ。昔は「腹^{はら}が減^へる」という表現が、ふつうに使われていた。だが、女性^{おんな}が用いていた「おなか^{はら}が空^すく」ということばがやわらかい感じでいいということで、男性^{おとこ}も使うようになり、今ではこの表現のほうが一般的になっている。それにつれて、かつてはふつうに使われていた「腹^{はら}が減^へる」の文体的レベル^{レベル}が相対的に下がり、今ではぞんざいに感じられる。

一方、「食^くう」とは反対に、語感^{ごかん}がマイナスからプラスに変わったことばもある。(III)

「こたわる」は「価値^{かち}のとばしい細^{こま}かなことや、さほど重要^{じゅうよう}でない点^{てん}に心をとらわれる」の意で、「過去の失敗^{しがい}にいつまでもこたわる」とか「細かい点^{てん}にこだわりすぎた」とかのように、従来^{じゆんらい}はもっぱらマイナス評価^{ひやうか}で使われてきた語だ。それは、「こたわる」ことに徹底^{てきてい}してこたわった志賀直哉^{しげなほ}が、『暗夜行路^{あんやこうろ}』のなかで、「自分の無骨^{むこつ}な手にこたわって居た」と書いているのを見てもわかる。

だが、今では、「味^{あじ}にこたわる」だとか「徹底^{てきてい}して使いやすさにこたわった商品^{しやうひん}」とかと、世代^{せだい}によってはむしろプラスのイメージに使われることが多くなった。(IV)

ことばの語感^{ごかん}は、時代の世相^{せそう}を受けて変化していく。その微妙な変化^dをピンカン^dに読み取って、相手や場によって表現^{ひょうげん}し分けることこそ、コミュニケー

シヨンの醍醐味だいごみと言えるだろう。

問一 二重傍線部 a～d の片仮名を漢字に、漢字を平仮名に改めなさい。

問二 傍線部①とあるが、「これ」とは何を指すか。本文中から抜き出し、解答欄に記しなさい。

問三 傍線部②とあるが、「食う」という言葉が「ぞんざいな語」になった理由は、どのようなことにあると筆者は考えているか。本文中から十五字以内で抜き出し、解答欄に記しなさい。

問四 本文中の空欄Ⅰ～Ⅳに当てはまるものとして、最も適当なものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 最近の「こだわる」がそういう一例だ。

イ それが、「ご飯」という少し丁寧な表現を人々がごく普通に用いるようになったために、相対的に文体的レベルが下がってしまったのである。

ウ 今では店先に「食べ放題」と掲示しているところもあるが、「食い放題」という正統な表現に比べ、まだ違和感を覚える人が多い。

エ 特に「こだわりの逸品」というように高い評価にも使われている例から見ても、このことばの語感の変化がはっきりと感じられる。

問五 本文の内容と合致するものは、どれか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ことばの語感の変化することはないので、相手や場によって表現を使い分けることがコミュニケーションの面白さである。

イ ことばの語感が変化していくことをふまえ、相手や場によって表現を使い分けることがコミュニケーションの面白さである。

ウ ことばの語感が変化していくことをふまえ、自分独自の表現をつくるのがコミュニケーションの面白さである。

エ ことばの語感の変化することはないので、自分独自の表現をつくるのがコミュニケーションの面白さである。

問六 次に示すのは、授業で先の文章を読んだ後の話し合いの様子である。後の選択肢の中から、空欄に入る言葉として最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

生徒A 何気なく使っている言葉も、よく考えてみると色んなことが見えてくるね。

生徒B 分かってる、知ってると思っていた言葉について、知らないことが多いんだなと思ったな。

生徒C 身近にあるものほど、実は分かっていないってことはよくあることだよな。

生徒A 本文を読んで、言葉の成り立ちについて考えてみると、現在、正しいことも未来では変わっているんだろうなと思っちゃうな。

生徒B 例えば、どんな？

生徒A 本文に書いてあるように「食う」は、昔は普通に使っている言葉だったんでしょ？ でも、今使くと、そんな言い方はしないようにと言われたりする人もいそうだし。

生徒C そういうことが過去から現在にかけて起こっているんだったら、現在から未来でも同じようなことが繰り返されていくんじゃないかというでしょ？

生徒A そうそう。正しさの（ ）性っていうのだね。

生徒B だから、その時や場に応じて、正しいことは何か知る必要があるし、その正しさに柔軟に対応できなくちゃいけないんだなと思う。

生徒C なぜ、それが正しいとされているのかも理解しておかないといけない気がするね。

【選択肢】 ア 絶対 イ 相対 ウ 客観 エ 普遍

問一 次の空欄に入る漢字一字をそれぞれ解答欄に記し、下の意味に合う慣用句を完成させなさい。なお、解答は植物に係のある漢字である。

- ① () が出る…幸運・好機が巡ってきて成功のきっかけができること。
- ② まかぬ () は生えぬ…準備や努力を何もせずに良い結果は得られるはずがないこと。
- ③ 根も () もない…物事の根拠や証拠などが全くないこと。
- ④ 破 () の勢い…勢いがあまりに激しく止めようのない状況、誰にも止められない快進撃を続けること。
- ⑤ お () をにごす…いい加減な事を言ったりするなどして、その場をごまかすこと。

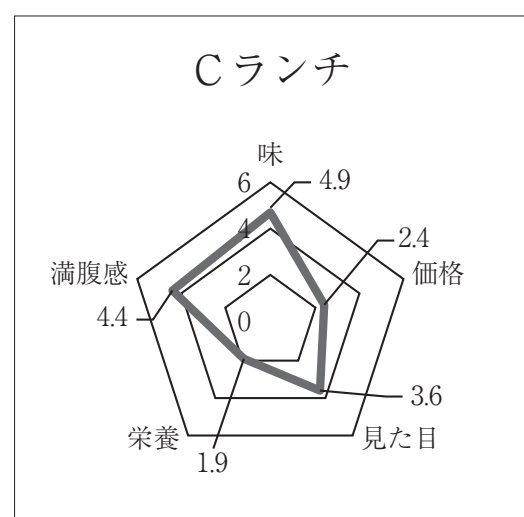
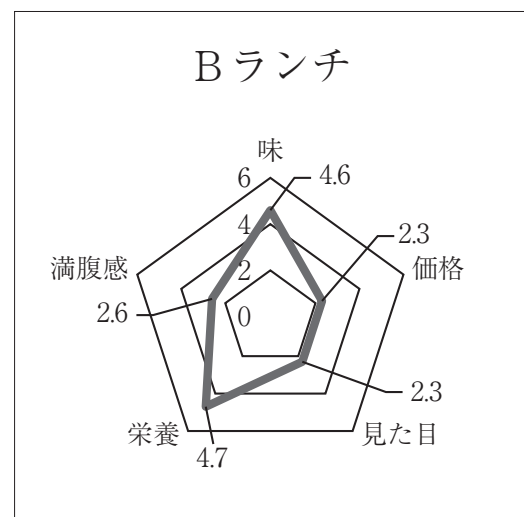
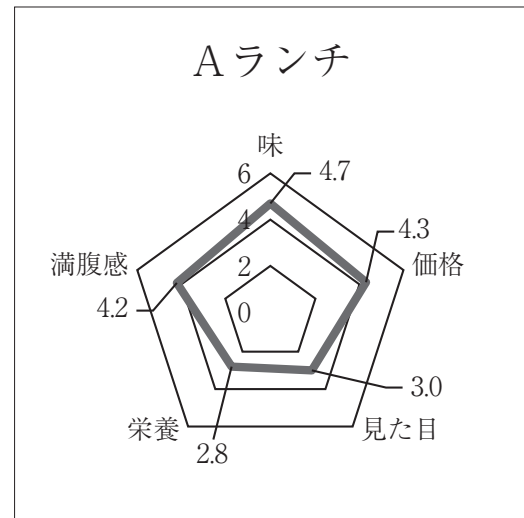
問二 次の空欄に入る動詞を後の語群から一つずつ選び、それぞれ解答欄に記しなさい。なお、必要があれば適当な形に活用させること。

- ① 何もできない私は手を () て見ているしかない。
- ② 姉の振り袖姿に目を () れる。
- ③ 最近の彼女のわがままぶりは目に () 。
- ④ 予想外の彼の言葉に耳を () た。
- ⑤ 彼女に借りた金を耳を () て返した。

【語群】

余る 疑う かす ひねる こまねく 奪う 切る 回す かける そろえる

次の資料と文章を読んだ上で、後の問いに答えなさい。



J 高校の学生レストランでは、来年度の新メニューを検討している。そこで、試作品を生徒代表十名に食べてもらい、「味」「価格」「満腹感」「見た目」「栄養」の五つの項目で五段階評価を行った。評価方法は「普通」を三点、「満足」を五点、「不満」を一点として、その結果を整理したものが右の図で、それぞれの評価の平均値によってレーダーチャートで示した。五つの指標の合計点が最も高いのは（ ① ）で、合計点は（ ② ）点である。C ランチの五つの評価指標の中で、ほかの二つのランチより平均値が高かった項目は（ ③ ）項目ある。三つのランチを総合して見たとき、五つの評価指標の中で最も高く評価されている項目は（ ④ ）である。

【生徒の意見】

I 「安くて満腹になれるのはうれしい。だが部活動で食事管理をしているため、野菜やお魚など増やして栄養バランスの取れたランチにしてほしいです。」

II 「おいしいし満腹になるけれど、高校生のお小遣いでは高く感じます。もう少し安かったら毎日でも食べたいです。」

III 「体型を気にする年齢なので、肉、野菜、魚と栄養バランスが取れていたのがよかったです。量も少なめだからダイエットにはちょうどいいです。」

問一 本文中の空欄に入る言葉として、最も適当なものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|--------|--------|--------|
| ① | ア Aランチ | イ Bランチ | ウ Cランチ |
| ② | ア 十八 | イ 十九 | ウ 二十 |
| ③ | ア 一 | イ 二 | ウ 三 |
| ④ | ア 味 | イ 価格 | ウ 栄養 |

問二 【生徒の意見】のI～IIIはどのランチを食べた人の意見ですか。それぞれA、B、Cの記号で答えなさい。

四

次の文章を読んだ上で、後の問いに答えなさい。

大蔵卿ⁱばかり耳^Aとき人はなし。まことに蚊^{まつげ}の睫^{まつげ}の落つるをも聞きつけたまひつべうこそありしか。職^{しき}の御曹^{みざう}耳^{みみ}が鋭い人

お聞きつけになりそうであった

司^しの西面^{にしおもて}に住みしころ、大殿の新中将ⁱⁱⁱ宿直^{iv}にて、物など言ひしに、そばにある人の、「この中将に、扇の絵

話などしていたところ そばにいる女房が

の事^b言へ」とささめけば、「今かの君^vの立ちたまひなむにを」と、いとみそかに言ひ入るるを、その人^①だに

ささやくので

お立ちになつてしまつたらその時にね

とてもひそかに

え聞きつけで、「何^{なに}とか、何とか」と、耳をかたづけ来るに、遠くみて、「にくし。さ^③のたまはば、今日^{けふ}は立たじ」
聞きつけることができないで

そのように

とのたまひしこそ、い^④かで聞きつけたまふらむと、あさましかりしか。

「枕草子」

i 大蔵卿……藤原正光。関白兼道の六男。

ii 職の御曹司……中宮職の女房たちの詰め所。

iii 大殿の新中将……「大殿」は左大臣藤原道長。「新中将」は新任の中将のことで、道長の養子の源成信をさす。

iv 宿直……夜、宮中・役所・貴人の邸宅などに職務として宿泊して、警護・事務・その他の奉仕をすること。

v かの君……大蔵卿。

問一 二重傍線部 a・b をそれぞれ現代仮名遣いに改め、すべて平仮名で記しなさい。

問二 波線部 A・B の意味として、最も適当なものを次の中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア など イ ほど ウ さえ エ まで

問三 傍線部①とは誰のことか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大蔵卿 イ 大殿 ウ 新中将 エ そばにある人

問四 傍線部②の主語は誰か。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大蔵卿 イ 大殿 ウ 新中将 エ そばにある人

問五 傍線部③が指す内容を本文中から十五字以内で抜き出し、解答欄に記しなさい。

問六 傍線部④の意味として、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 何とかして聞きつけよう

イ 何とかして聞きつけなさってほしい

ウ どうしてもお聞きつけになるものだ

エ どうして聞きつけなさっているのだろう

問七 本文の内容について、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア そばの人にも聞こえないほどこっそり言った言葉を、大蔵卿が聞きつけていたから驚いてしまった。

イ 身近な人にも隠していた内緒の話を、遠くの大蔵卿はひそかに聞き出していて、あさましいと思った。

ウ そばにいる人がこっそり話していた言葉を、遠くに座っている大蔵卿が聞きつけていてびっくりした。

エ そばの人にも聞こえないほどこっそり言った言葉を、大殿が聞き出していたから驚いてしまった。

受験番号
出身学校
氏 名
得 点

令和六年度（専願）国語解答用紙

一

問一
a

b

c

d

問二

問三

問四
I

II

III

IV

問五

問六

二

問一
①

②

③

④

⑤

問二
①

②

③

④

⑤

三

問一
①

②

③

④

問二
I

II

III

四

問一
a

b

問二
A

B

問三

問四

問五

問六

問七